

2026年8月21日（金）

老球の細道936号

状況判断〈デシジョンメイク（decision make）〉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

熊本の大地震被害真只中、今度は関東地区に大雨の被害があり、千葉県では家屋の床上浸水のみならず、車の水没などで死傷者まで出る被害が起こっている。ニュースなどでレベル4以上の緊急情報が流されていたのにもかかわらず、「自分は大丈夫だろう」という状況判断の甘さが災いになり、多くの車が道路に立ち往生したようである。15年前の東日本大震災時においても、身を守るための、生徒を守るための状況判断が問われたことを思い出す。

緊急事態においては、この状況判断力が問われるが、バスケットボールのプレイにおいても同じである。近年「バスケットボールIQ」などと表現され、戦術的な理解だけでなく、ある状況において正しい決定を行い、正しいプレイを遂行するための「状況判断力（デシジョンメイク）」が重要な能力となっている。ブライアン・マコーミック著『バスケ脳力』〈スタジオ・タック・クリエイティブ〉には下記のように記されている。

- * 試合の展開を読み、何が起こっているかを理解すること。
- * これまでの経験に基づいて、試合がこれからどのように動くかを予測すること。
- * 与えられた状況に対して、過去の経験を利用して正確な決定を下すこと。
- * その場に合ったプレイによって、素早くプレイすること。

最近、私の周囲のコーチの間では、選手の状況判断力が話題になっている。ボールを持てば、ただがむしゃらに3Pシュートを打ったり、ヘルプディフェンスがたくさん待っている中に強引にドライブを仕掛けたり、ボールを持っていないとどこに動いていいかわからないなどのプレイが頻繁に見かける。状況判断力が未熟、または指導されていないのだろうか。

そもそもバスケットボールのスキルは「オープンスキル」と言われ、対人プレイの中で、相手に対応しながら自分のプレイを実行しなければならない。相手がどう動いたか、味方がどう動いているかを見極めながらプレイを判断することが必要になる。そのためのプロセスとして脳の中では「認知」（状況を見ること）、「判断」（認知した状況を判断し、適切なプレイを選択する）を行い、そして「実行」（ディフェンスへの対応に応じた正確、適切なスキル、プレイの実行）することである。

最近 You チューブなどで外国のクリニックを見ていると「デシジョンメイク（decision make）」を扱ったトピックが非常に多い。それを見ると、ディフェンスをつけ、アドバンテージ付きの工夫されたドリルが満載である。従来の日本におけるディフェンスをつけない練習ばかりしていると、この状況判断力や「賢いプレイ」は習得できない。

試合で通用するスキル、プレイは「上達の5つの『い』」の「①うまい」「②速い」「③強い」のレベルではホンモノ相手には通用しない。「④賢い」（状況判断しながらプレイできる）のレベルまで進化してホンモノとなる。そして最後の「⑤ムロイ」（自分だけの必殺技。シグネチャー・ムーブ）まで到達した時、鬼に金ボールとなる。